



西郷南洲翁揮毫

### ご挨拶

理事長 吉永龍暘  
会長 吉永龍奏

謹啓 盛夏の候、会員の皆様にはご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てを賜り、心より御礼申し上げます。

昨年引き続きコロナ禍、稽古は出来ず、心身とも不健康に陥りがちです。このような時こそ、家で発声し、健康に結びつけて頂きたいと思っております。

この度の発刊日は、亡き洲神の誕生日で、存命であれば九十二歳でした。きつとこの世の今を憂い、その中にありながら南洲吟道会の同志の皆様による会報「敬天愛人」の継続を大変喜び、良く読んでいただくことでしょう。

また、とても残念な事に、令和三年一月二十九日に相談役を務めて頂いた平松龍康様が九十歳でご逝去されました。国分寺南洲吟道会に於いてもご指導頂き、模範の会と導き発展されました。本来であれば、ご葬儀に於いて会員出席者による弔吟を捧げますが、コロナ禍故に合吟での形は断念せざるを得ませんでした。やむなく、皆様のお気持ちと共に、また、理事長・会長としての感謝と鎮魂の思いと共に、琵琶の演奏にて龍奏が弔吟を捧げました。改めて謹んでご冥福をお祈りしつつ、会員各位にご報告申し上げます。

昨年度の活動はすべて中止に成りましたが、延期となった温習会は、六月三十日(水)野方区民ホールに於いて、無事に迎えることが出来ました。感染対策等は、皆で協力するものであり、皆様のご賛同と多くのお力添えを頂き感謝申し上げます。

まだまだ油断のならぬ時期ですので、令和三年年度の定時総会は中止と致します。例年通りに偽りなく会計監査を受け、皆様にはご承認いただけるよう運んで参ります。ご了承下さいますようお願い致します。

役員改選の年を迎えておりますが、令和三年四月一日から令和五年三月三十一日迄継続し、ご就任頂きたく、本会発展の為に尽力賜りますよう、どうぞ宜しくお願い致します。会のより良い改善の為に、ご意見等ございましたら遠慮なくお申し出下さい。

それでは夏の暑い時期にも十分にご自愛ください。

会報 「敬天愛人」第五十四号  
発行日 令和三年七月十五日  
編集人 南洲吟道会 広報局長 手塚憲龍  
発行人 理事長 吉永龍暘・会長 吉永龍奏  
発行所 〒一六五-〇〇三五 東京都中野区白鷺二三四-五  
公益社団法人 日本吟道学院公認 南洲吟道会  
電話・FAX 〇三-三三三-〇一七〇〇九

### 訃報 平松茂(龍庚)氏

去る令和三年一月二十九日(金)、平松茂(龍庚)氏が九十歳にて永眠されました。葬儀は、喪主・平松玉枝(龍宝)様(奥様・国分寺会会長)、通夜・二月三日(水)、告別式・二月四日(木)、国分寺市の東福寺むさしの斎場にて取り行われました。故人は本会相談役、国分寺市吟詠剣詩舞連盟事務局長として吟道の振興に多大な貢献をされました。生前のご活躍に感謝し、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。(広報局)



洲神会第二教場にて



国分寺市吟詠剣詩舞連盟 初吟会にて



会長による弔吟・琵琶伴奏 (通夜)

## 故平松龍庚先生追悼

鷺宮教場 稲葉龍誠

平松龍庚先生はここ数年、病氣療養中でありましたが、訃報に接し、残念でなりません。平松龍庚先生と私との出会いは阿佐ヶ谷教場に始まり、その後は洲神第二教場へと続きます。一期一会、球心に稽古に接していただきました。自分自身は糸の針となり、多くの人を引き上げてくださいました。又、全国大会、各種大会においても世話役として尽力を注いでくださいました。長い間本当にお世話になり、有難うございました。安らかに。

## 訃報 広瀬正和(龍正)氏

去る令和三年五月二十三日(日)、広瀬正和(龍正)氏が七十八歳にて永眠されました。葬儀は、喪主・広瀬薫様(御長男)、五月二十六日(水)、習志野市のウイズモア―大久保にて家族葬で行われました。故人は本会前相談役、前習志野会会長として吟道の振興に多大な貢献をされました。生前のご活躍に感謝し、ご冥福を心よりお祈り申し上げます(広報局)



習志野会創立5周年 吟行会にて①



習志野会創立5周年 吟行会にて②

## 故広瀬龍正先生追悼

習志野会 萩野進龍

戒名、**剛正吟諷信士、俗名、広瀬正和**。当に、戒名通りの人生だったと思います。詩吟と酒吟を愛して、習志野会をリードして下さいまし

たが、難病、血小板減少症と診断を受け、静養中でしたが、令和三年五月二十三日、地元、谷津保健病院で逝去されました。誠に残念の一言です。七十八才でした。今頃は、師匠、故吉永洲神先生との合吟を楽しんでいるか!と思います。合掌。

## 本部だより

### ◎令和三年度春季昇段審査 結果報告

四月十八日(日) 本会春季昇段審査会は、コロナ禍の為、指導者の推薦を持って合格とし、次の通り審査決定されました。(指導局)

#### 春季昇段者名簿

中川晋洲 初伝 茂呂真龍 秀伝 手塚憲龍 秀伝 山田龍璽 総伝  
四名の方々が合格です。おめでとう御座います。益々のご活躍を  
お願い致します。

### ◎再入会のご紹介

詩吟三田教場 米田こず絵(梢水) 令和三年四月一日再入会

### ◎令和三年度定時総会(中止)・監査会

六月六日(日) 会場 白鷺高齢者会館 定時総会は中止となりましたが、監査会は午後二時から開催されました。

### ◎令和三年度南洲吟道会春季温習会

六月三十日(水) 会場 野方区民ホール 午後二時開演

### ◎琵琶 第十六回鶴場の會

十月七日(木) 会場 なかの芸能小劇場 午後一時開演

### ◎琵琶詩吟 時分の花 吉永鶴奏の會

十二月十九日(日) 会場 青山鍊仙会能楽研修所

## 総本部だより

### ◎ 全国吟詠コンクール 東京地区予選会

八月十五日(日) 会場 小松川区民館

### ◎ 夏季吟道大学講座

八月二十三日(月)・二十四日(火) 会場 タワーホール船堀

午前十時～午後四時三十分

### ◎ 吟道普及実践教室「至誠塾」開設 詳細は吟道誌五月号

単発の講習会ではなく、定期開催の学校(教室)形式で行います。

目的 指導者育成 会場 日本吟道会館ホール 期間 二年

開講日 令和三年九月八日(水) 予定

### ◎ 東京地区壮心大会

九月二十三日(木・秋分の日) 会場 小松川区民館

### ◎ 五行歌吟詠集制作記念発表会

九月二十九日(水) 会場 タワーホール船堀

令和四年

### ◎ 新春賀詞交換会

一月八日(土) 午前十時より 会場 日本吟道学院ホール

### ◎ 日本吟道全国吟詠コンクール決選大会

三月二十五日(金) 午後一時～五時

会場 かつしかシンフォニーヒルズ

## 教場だより

鷺宮教場と、ともに

鷺宮教場 安永龍珀

鷺宮教場がスタートしたのは昭和五十五年九月五日でした。私はその頃、

吉永先生の近くに住んでいましたので、吟のお稽古の日は二階から生徒の吟ずる声が聞えてきてよく立ち止まって聞いたものです。ある日、龍陽先

生がお見えになり鷺宮教場を作りますので「いかがですか」と声を掛けて下さいました。私は鷺宮で仕事をしていた関係から、二人の人(石井さん、土橋さん)をお誘いして入会することにしました。発会式当日、三人揃って鷺宮区民センターの二階の座敷の大広間に行くと吉永洲神先生、龍陽先生始め十数名の方が集まっていました。その中に古くからの知人の山田さんがいてびっくりしました。池尻教場の女性三名の方がお揃いのブルーのドレスで目立っていました。出席の方々が吟を披露して下さい、賑やかな発会式となりました。次の週から、男性一名(深水さん)、女性四名で始まりました。女性の四名は吟が初めてだったので洲神先生の熱心な指導で何とか少しずつ出来るようになりましたが、先生はご苦労なされたことと、今、思います。

鷺宮にはお店も少なく、センターの並びに「養老の滝」と云う焼鳥のお店があり、お稽古の帰りに先生を囲んで楽しい時を過ごした事を昨日のように思い出します。毎年、日帰り旅行など両先生も一緒に一緒され、秩父方面には度々出掛けました。秋には道端に栗林からこぼれ落ちた栗を拾い乍ら宿まで歩いたこともありました。

あれから四十数年が過ぎ、私は、去年米寿を迎えました。龍陽先生に丁寧にご指導して頂き現在があります。感謝しております。コロナに負けずに吟じてゆきたいと思えます。

コロナ禍で若鷺宮教場の三名の方が加わり、現在九名で勉強しています。皆様にお会い出来ない日が続いています。温習会が無事出来ますこと願っています。令和三年五月二十五日記



現在の鷺宮教場

## 会員だより

### 私とマスク

習志野会 吉沢麗龍

コロナに振り廻されてのこの一年、緊急事態を受けての過ぎゆく時間と生活が、時計が止まったかの様に、長い月日と、とまどいの中でふと思いついた「マスク」作りに挑戦、豊かな今の時世ですが、あえてこの時期を利用して、手縫いでの小さな作業を始め、年の重ねも気にせずに一針一針、あきもせずに縫い上げての作業、個々の仕上がりに一人悦に入っております。消毒、「マスク」の着用を余儀なくされての日々には、「マスクフェイス」、いつ迄続きます事やら、未だ々（まだまだ）、収束には時間が掛りそうです。ここで私が友人の家族の一人のおばあちゃんとの出会いを書かせて頂きたく綴りました。手作り「マスク」を友人にプレゼントしました所、おばあちゃんが気に入って下さり、“人の温もりと、癒し”を感じていいねと、気分を替えては楽しんで使用してますとの御返事を頂きました。大変嬉しく、利用して下さっていることに感謝です。

お会いしたのは、二年程前になりますが、姿のきれいな笑顔の可愛いのが目に浮かびます。農家に嫁がれて八十五才迄、畑仕事や草むしりが日課、団塊世代の今日迄、時代々々の困難をのり越えての人生を、たんたんとして、又笑顔を忘れずに語って下さった長寿の秘訣は、身体を動かす事の習慣が苦にならず、くよくよせずに、人とのかかわりを大切に、そして趣味を持ち、生かしてゆくこ



思い出の小手鞠

との頑張る力、考える力が生きることへの智慧ですね、と語っております。大変重みのある奥深い言葉に胸が熱くなったのを覚えております。今年で100才になりましたと御返事に綴ってありました。今は家族と一緒に公民館で絵を習っているそうです。私に手作りの刺繍の小手鞠を下さったのが、生涯、忘れ得ぬ大切な思い出の品となりました。健やかに、お元気を祈りつつ100才バンザイ。私の手作りマスクもありがとう。それから、今、私は詩吟を勉強させて頂き、早、二十年すぎました。これからも、生きる糧として、頑張れたらと思っております。

## 編集後記

会員の皆様、如何お過ごしでしょうか。相変わらず、コロナに翻弄されるの不自由な生活を強いられていることと思えます。会報の紙面でもおわかりの通り、大会・行事等も思うようには開催できていません。現状ではコロナの治療薬がなく、ワクチン、ワクチンです。接種はお済みになりましたか。詩吟活動は偏にここにかかっております。

昨今はワクチンの免疫効果もまだ先なのに、オリパラにどの程度の観客を入れるのか、会場内はともかく、それによる会場外の人流などの影響をなおざりにした話が活発にされております。インド株を中心にした感染爆発が心配です。目をつぶって「エイヤ」ではなく真摯な議論をして頂きたいものです。私達にできることは手洗い・マスク・距離。基本を守り、コロナに罹らないように気を付けましょう。六月二十四日記（広報局）

広報局長 手塚憲龍 記録部長 稲葉龍誠  
広報部長 萩野進龍 編集部長 曾根龍富  
HP担当 菊地務